

# RICOH



# RICOH REPORT 2011

夏号



## Contents

一目で分かるリコー	1
トップメッセージ	3
決算レポート	7
リコーの事業紹介	9
リコーグループのCSR	11
リコーグループの環境経営	13
ニュースファイル	15
株主アンケート結果のご報告	17
株主様向け企画のご報告	18

# 一目で分かる リコー

リコーは、日本、米州、欧州、アジア・パシフィック、中国の5極体制で販売・サポート・生産・研究開発のグローバルネットワークを築き、世界のほぼ全域をカバーしています。

連結売上高



1兆9,420億円  
(2011年3月期)

販売エリア



全世界180以上  
国と地域

グループ従業員数



109,014人  
2011年3月31日現在

2050年環境負荷削減目標



87.5%減  
2000年比、ライフサイクルでのCO<sub>2</sub>排出総量

グローバル100



7年連続選出  
「世界で最も持続可能な100社」に  
7年連続選出

Fortune Global 500\*



2010年度402位

\*Time Inc.、社発行の「Fortune」誌が発表した売上高世界ランキング上位500社



欧州極

従業員数  
17,350人

Ricoh Europe PLC  
(欧州極 統括会社)

より詳細な情報は当社ホームページの「リコー早分かり」でご覧いただけます。

リコー 早分かり

検索

● 販売・サポート ▲ 研究開発 ■ 生産

### 中国極

従業員数  
**11,808**人



● Ricoh China Co., Ltd.  
(中国極 統括会社)

### 米州極

従業員数  
**34,139**人



● Ricoh Americas Corporation  
(米州極 統括会社)



● 株式会社リコー

### 日本極

従業員数  
**40,072**人



● リコー  
テクノロジーセンター

### アジア・ パシフィック極

従業員数  
**5,645**人



● Ricoh Asia Pacific Pte., Ltd.  
(アジア・パシフィック極 統括会社)



● Ricoh Manufacturing  
(Thailand), Ltd.



東日本大震災で被災された皆様や  
 そのご家族の方々には、  
 心からお見舞い申し上げます。  
 皆様の安全と  
 一日も早い復旧・復興を  
 お祈り申し上げます。

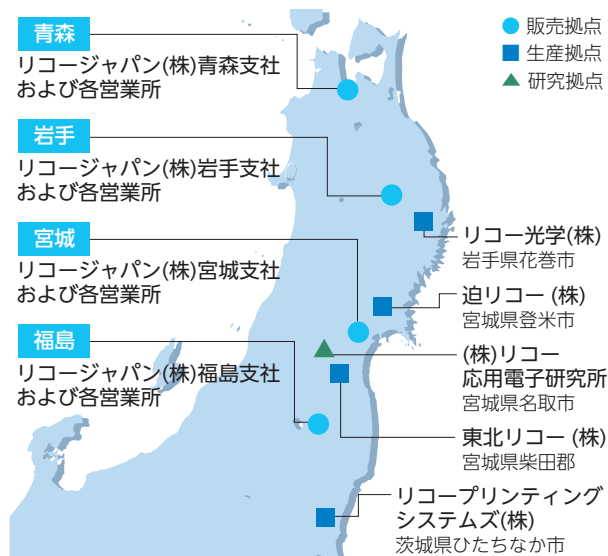
代表取締役 社長執行役員  
**近藤 史朗**

リコーグループは復旧・復興へできる限りの支援活動に努めます。お客様の事業継続のための商品・サービスの提供に最大限努力するとともに、震災による業績影響を最小化すべく、リコーグループの総力を結集し活動しています。

## 東日本大震災による被害

平成 23年 3月に発生した東日本大震災では、当該地域に所在する生産、販売、保守サービス、研究開発などの拠点において、施設、設備の損壊等が発生しました。また、輸送インフラの寸断、ガソリンなどの供給不足も加わり、お客様への製品供給に大きな影響を受けました。

### ● 東日本大震災の被災地域(太平洋沿岸)に所在する主な拠点



## 被災した全生産ラインで操業を再開

被災した生産拠点(4拠点)は順次生産を再開し、5月10日の東北リコー(株)におけるトナー生産の再開により、被災地域における全生産ラインが操業を再開しました。また、被災地域への投資として東北地区でのリサイクル拠点の設置や東北リコー(株)における設備投資の増強等を検討しております。

## 夏の節電対応について

東京電力管内、東北電力管内のリコーグループの事業所について、政府方針を受けてこの夏のピーク時電力消費量を昨年に比べて15%抑制する計画です。そのため従来からの節電策に加え、7月から9月までは、事業所間での夏休み輪番制とサマータイム制の導入を予定しています。消費電力抑制の中で、お客様の事業継続のために生産活動、受発注管理、コールセンター、データセンター等には支障をきたさない体制を整備しています。

## 復旧・復興への支援について

被災された方々の救済や復興に役立てていただくため、総額3億円の支援を実施しました。

- 自治体やNPOへの支援金として2億円の寄付
- 復旧に携わる被災地の自治体やライフライン系企業へ、耐衝撃・防水・防塵デジタルカメラ「G700/G700SE」やGELJETプリンターの供与

その他にも自治体への複写機の無償貸与や救援物資の提供等を実施しました。



2010年6月にニューヨーク・タイムズスクエアに完成した100%自然エネルギーで点灯する広告塔

### その他の活動

- ニューヨーク・タイムズスクエアのリコーの広告塔に、「がんばれ、日本」の応援メッセージと、米赤十字社への寄付を呼びかけるメッセージを掲載しました。
- 従業員等の自主的な活動として、「グループ各社の従業員による募金活動や救援物資の提供」「社会貢献クラブFreeWillによる拠出金の寄付」「リコーラビー一部による募金活動」等を実施しました。
- 銀座のリコーフォトギャラリー RING CUBEに義援金募金箱を設置するとともに、RING CUBEの販売グッズの売上を全額寄付しました。

## 「経済」「社会」「環境」を 同軸にとらえ、 それぞれに対する価値を 生み出していきます。

私たちの前には社会全体で取り組まなければならない問題がいくつも積み重なっています。

私たちリコーは、企業活動を通して持続可能な社会の実現に貢献していくことで、こうした問題の解決にも寄与していきたいと考えています。

たとえば、生産工程で無駄をなくすことは、コスト削減だけでなく、環境負荷の低減にもつながります。

また、環境への負荷が低い製品・サービスを提供することで、お客様の環境負荷を低減するとともに、お客様からの支持を得て、企業自身も成長することができます。

社会からの要請に応え、社会の発展に役立つ新しい価値を提供し続けることで、「社会から成長、発展を望まれる企業」であり続けることができます。

私たち企業が成長・発展していくことと、持続可能な社会の実現は同軸にあるといえます。

私たちは、企業(経済)、社会、環境、それぞれに対する価値を生み出していく取り組みを進めていきます。そして、新たな技術革新やビジネスモデルを創出するイノベーションを通じて、継続的に企業価値を高めていきます。

企業価値向上に関する基本的な考え方  
-「経済」「社会」「環境」の3つの側面から企業価値を向上-



## 事業領域を拡大する ことにより、 お客様に新たな価値を 提供していきます。

### サービスによる価値提供を強化

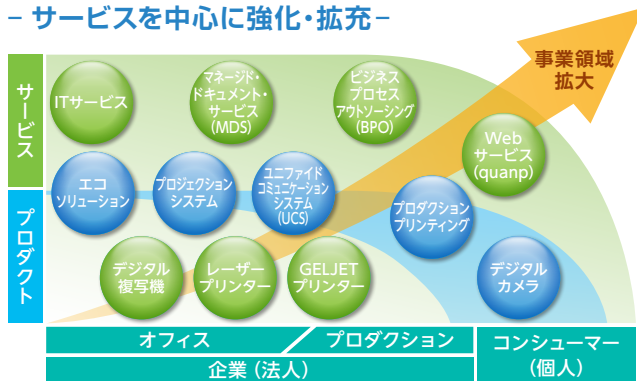
リコーはオフィスに革新をもたらす新たな価値を次々に提供し、お客様とともに成長してきました。1990年代以降、その進化はより加速し、デジタル化、ネットワーク化、さらには、強みである画像処理技術と顧客接点力をいかしたドキュメントソリューションへと価値提供を拡げてきました。そしていま、「モノ(機器の所有)」に加えて「コト(役務・仕事の中身)」に対

するお客様のニーズが高まるなかで、機器の提供に加え、サービスによる価値提供へと事業領域を拡大しています。

出力機器の運用管理やドキュメント管理を行うマネージド・ドキュメント・サービスや、IT機器やITインフラの運用管理を行うITサービスなどのサービス事業領域を強化しています。また、製品・サービスの提供領域に関しても、従来のオフィスにとどまらず、プロダクションプリンティング領域やコンシューマー領域へと拡大しているなか、今後ますます拡大する新興国市場での事業拡大に向けて重点的に経営資源を投入していきます。

### 事業領域拡大の方向性

#### - サービスを中心に強化・拡充 -



## 新規事業を創出し、事業の新陳代謝を促進

プロダクションプリンティングにおいては、従来からの先進的な製品開発力に加え、マーケティング機能の強化を図り、これまでに積み重ねてきた先行投資の成果を確実に収益に結びつけていきます。

さらには、長期的な成長に寄与するための新たな事業の育成に努めています。映像や音声等の多様な情報を統合して効率的にコミュニケーションするユニファイド コミュニケーション システム (UCS) 事業を新規に立ち上げ、2011年夏以降に新製品・サービスの提供を開始します。また、環境負荷軽減効果の高い製品群とそれを活用したソリューションを提供するエコソリューション事業を立ち上げ、その第一弾として、LED照明市場に参入しました。消費電力が少なくCO<sub>2</sub>排出量も抑えられるLED照明の市場は、大きな拡がりを見せており、独自開発の技術とグローバルな販売・サービス網をいかして事業を拡大していきます。

このように新規事業分野へ資源や人材を投入し、事業の新陳代謝を促進することで、売上高に占める新規事業の比率を25%程度を目安に引きあげていきます。

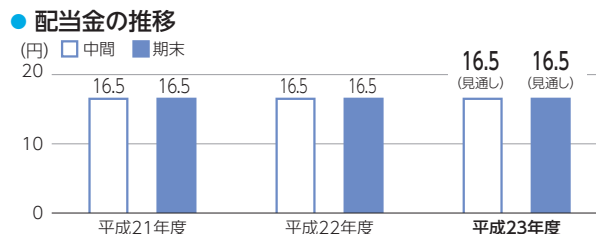
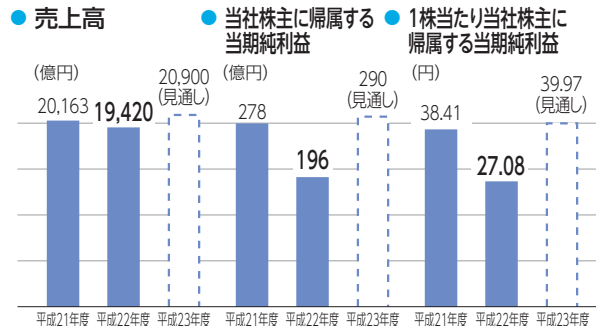
今後もお客様に新たな価値を提供し続けるイノベーションをリコーグループ全体で実践することで、お客様の期待を超える事業活動に挑戦していきます。



## 連結業績の概況

米ドルおよびユーロに対する大幅な円高の進行、平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災など、当社を取り巻く環境は厳しい状況でした。連結売上高は前年度に比べ3.7%減少し19,420億円となりました。画像&ソリューション分野における高付加価値商品・サービスの売上増加や継続的なコストダウンの成果と、グループをあげて取り組んでいる構造改革活動が販売費および一般管理費の削減に寄与したものの、震災による被害損失により営業利益は前年度に比べ8.8%減少し601億円となりました。営業外損益は円高による為替差損により悪化し、税金等調整前当期純利益は前年度に比べ21.1%減少し454億円となりました。

以上の結果、当社株主に帰属する当期純利益は、前年度に比べ29.5%減少し196億円となりました。



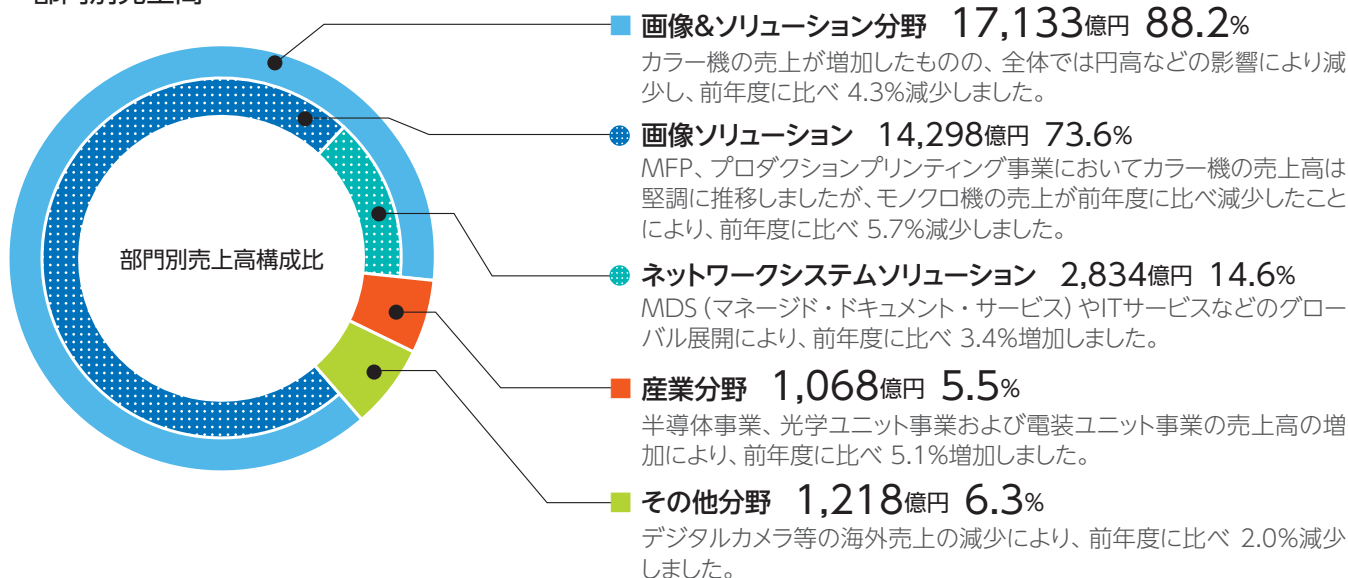
## ● 主要連結財務データ

科目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (見通し)	
売上高合計	20,689	22,199	20,916	20,163	19,420	20,900	
うち海外	10,666	12,039	11,533	11,397	10,661	11,900	
営業利益	1,743	1,815	745	659	601	700	
税金等調整前当期純利益	1,745	1,746	309	575	454	630	
当社株主に帰属する当期純利益	1,117	1,064	65	278	196	290	
設備投資額	858	852	969	669	669	670	
研究開発費	1,149	1,260	1,244	1,098	1,108	1,200	
総資産	22,434	22,143	25,134	23,839	22,623	—	
株主資本	10,709	10,801	9,753	9,733	9,298	—	
株主資本比率 (単位: %)	47.7	48.8	38.8	40.8	41.1	—	
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益 (単位: 円)	153.10	146.04	9.02	38.41	27.08	39.97	
1株当たり株主資本 (単位: 円)	1,467.03	1,498.29	1,344.08	1,341.45	1,281.70	—	
1株当たり配当金 (単位: 円)	28.00 (13.00)	33.00 (16.00)	33.00 (18.00)	33.00 (16.50)	33.00 (16.50)	33.00 (16.50)	
(ご参考)	為替レート (US\$)	117.02	114.40	100.55	92.91	85.77	85.00
	為替レート (ユーロ)	150.08	161.69	143.74	131.21	113.28	120.00

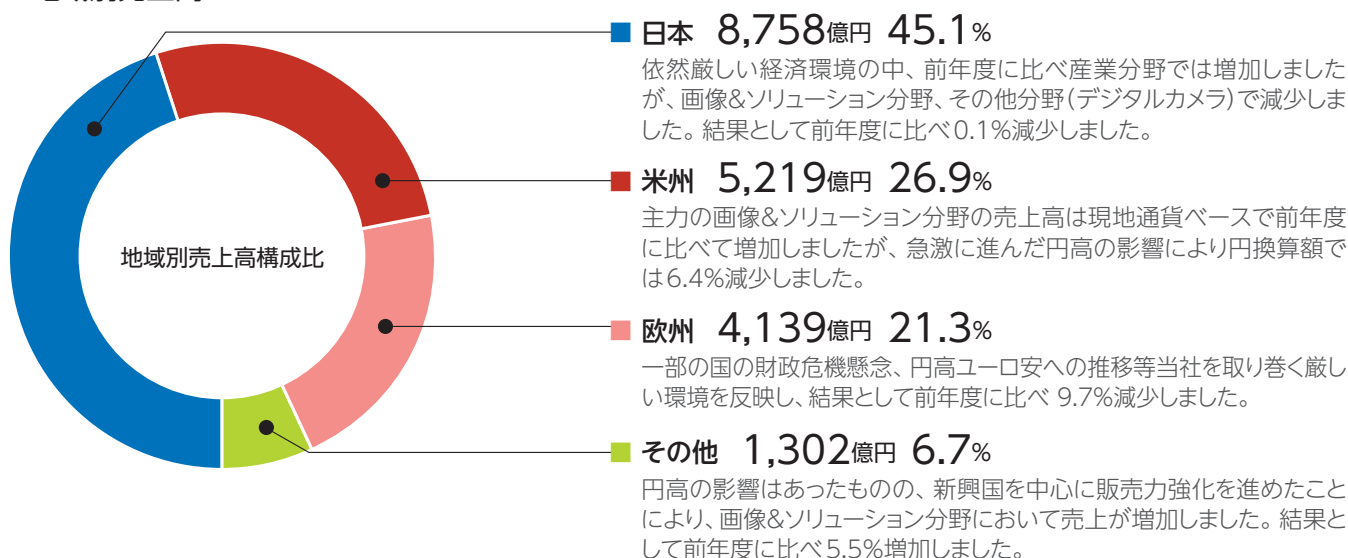
(注) 1. 当社の連結財務諸表は米国会計基準に基づいて作成しております。  
 2. 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は、自己株式数を控除した期中平均株式数により計算しております。  
 3. 1株当たり配当金は通期実績での金額を掲載しております。( ) 内が、うち中間期の配当金となります。



## ● 部門別売上高



## ● 地域別売上高



# リコーの事業紹介

リコーの製品・サービス

複写機/複合機 	プリンター 	プロダクションプリンター 
デジタル印刷機 	ソフトウェア 	ファクシミリ 
ITサービス	マネージド・ドキュメント・サービス(MDS) 	プロジェクションシステム 
デジタルカメラ 	電子デバイス 	組込み用ユニット 
サーマルメディア 		

この事業にも注目!

## プロダクションプリンティング事業

請求書やDMなど大量の印刷やオンデマンド印刷を効率よくこなす、高速で生産性の高いプリンターとそのワークフロー・ソリューションを提供するビジネスです。コスト削減や納期短縮、販売促進効果の向上などの優れた成果をお客様に提供しています。



## マネージド・ドキュメント・サービス(MDS)

お客様にとって負担となる、出力やドキュメントの運用・管理など機器の周辺業務をリコーがすべてお引き受けするサービスです。お客様は機器の不具合や消耗品の補充などに煩わされることなく、より本来の業務に集中できるよう支援します。全世界で統一したサービスメニューを揃え、各地域の出張サービス網を敷き、万全なサポート体制を整えました。2010年、名古屋開催のCOP 10生物多様性条約結国会議や、横浜で開かれたAPECアジア太平洋経済協力会議でも、リコーがMDSを提供しました。



## プロジェクションシステム事業

長年にわたって蓄積している光学技術・加工技術を活かし、以前からプロジェクター基幹部品である光学エンジンを提供していたリコーは、2010年、プロジェクションシステム事業を新規に立ち上げました。グローバルな販売・サポート体制を最大限に活かし、製造、ソフトウェア開発、ソリューション提案、販売・サービスに至るまで一貫して価値の高いビジネスをワンストップで提供していきます。



# MFP

(マルチファンクションプリンター)

カラー複合機  
imagio MP C3301/C2801シリーズ

コピー

プリンター

スキャナー

FAX



1台で、コピー・プリンター・スキャナー・FAXなどの多くの機能をもつ複合機  
ICカードでのセキュリティ対応など、お客様のワークフロー、オフィスの環境に合わせて柔軟に対応

## すべての人にやさしい操作性を

8.5インチの大型フルカラータッチパネルを搭載し、操作性を高める簡単画面機能や色弱の方にも分かりやすいLEDランプと操作画面を採用しています。



大型フルカラータッチパネル

\*ランプの表示状態は撮影用のイメージです。画面はハメコミ合成です。

使いやすい  
簡単画面



色弱の方にも見やすく、  
分かりやすい画面

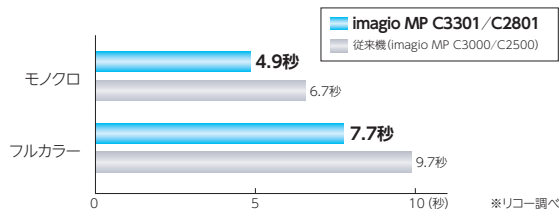
\*ランプの表示状態は撮影用のイメージです。  
\*キー色反転時。

## さらなる高生産性を実現

ウォームアップタイム23秒、スリープモードからの復帰時間9.9秒のスピーディーな起動を実現!

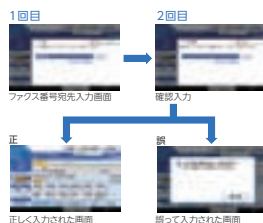
ファーストコピータイムは、モノクロで4.9秒、フルカラーで7.7秒と高速。「1枚しかコピーしないのに待たされる」という従来の不満を軽減しました。

\*A4ココ、片面、等倍、本体第1給紙トレイ、原稿ガラスのとき。



## 高度なセキュリティ

ファクス送信時の番号の押し間違いを抑止する宛先繰り返し入力機能を搭載。



オプションの「リコー個人認証システム AE」を使えば、非接触ICカードを用いた個人認証により、印刷物の取り間違えや取り忘れによる紙文書からの情報漏えいを抑止することも可能。



## もっと地球にやさしく

新カラー QSU 技術により、ウォームアップタイムを短縮し、起動時の電力量を低減。これにより、標準消費電力量(TEC)を低減しています。

\*国際エネルギースタープログラムで定められた測定法による数値。

スリープモード時の消費電力はわずか1.1Wと消費電力の大幅な削減を実現。

\*imago MP C3301/C2801 SP の場合。

包装材は環境負荷削減のために、リユースが可能な「循環型エコ包装」を使用。お客様先でゴミを排出しない上、省資源に繋がります。



## 持続可能な社会の構築と企業価値向上の両立を目指し、CSRに取り組んでいます。

### 創業の精神が息づくリコーグループのCSR

リコーグループの創業の精神は、創業者 市村清の唱えた「三愛精神」です。三愛精神とは、世界人類の一員としてすべての人を愛し、国と自然を愛し、自分にあたえられた使命を愛して励むことです。この考えそのものが、リコーグループのCSRの原点となっています。



### リコーグループのCSR

リコーグループでは、2階建てのCSR活動に取り組んでいます。1階のCSRは「社会に対する基本的な責任」の領域、そして2階のCSRは「社会に対する自主的な責任」の領域を指し、CSR憲章の4分野を中心にさまざまな活動を展開しています。1階の活動で社会からの信頼を確保し、2階の活動で企業としての価値を創造することで、「CSRの目指す姿」を実現していきたいと考えています。

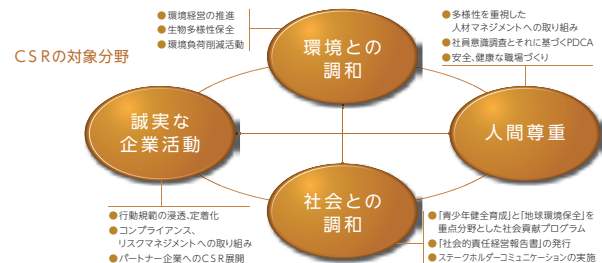


特に強化しようとしている2階の「価値創造CSR」とは、リコーグループの技術・商品・サービス・人材などのリソースを活用し、社会が直面しているさまざまな課題解決に貢献する活動です。

CSRを、社会的課題の解決と自社の成長の同時実現を目指す成長戦略として捉え、活動の幅を広げています。また、社員一人ひとりが社会の課題に対する意識と感性を高め、自らが行動を起こす組織風土の醸成を目指し、「価値創造CSR」の浸透・啓発活動を強化しています。

### リコーグループのCSRの4分野と主な取り組み

リコーグループではCSR憲章に則り、4つの対象分野（誠実な企業活動、環境との調和、人間尊重、社会との調和）で行動計画を策定し積極的な取り組みを進めています。



誠実な企業活動	商品やサービスにおいて、つねに品質・安全・情報セキュリティ・信頼性の向上を追求し、より多くのステークホルダーの方々に満足、そして感動を提供することを目指しています。
環境との調和	環境負荷削減と生物多様性保全の両輪で環境経営をさらに強化、加速し、環境保全と利益創出の同時実現を行っています。
人間尊重	さまざまな人材がイキイキと活躍する企業を目指してダイバーシティとワークライフ・マネジメントを両輪とした取り組みを進め、安全かつ快適な職場環境づくりを行っています。
社会との調和 (地域社会との共生)	それぞれの国や地域社会の発展に貢献出来るよう、その文化を尊重しコミュニケーションを深めながら、社会貢献活動を展開しています。
社会との調和 (ステークホルダーコミュニケーション)	社会のさまざまなステークホルダーの方々との対話を通して、CSR活動の質の向上に反映し、レベルアップを図っています。

## 社会的責任の国際規格 「ISO26000」の導入と活用

**我**々を取り巻く国際社会には、地球環境問題をはじめとして、貧困や人権問題など様々な問題を抱えており、「社会的責任」は地球・社会の持続可能な発展には欠かすことができない取り組みとなっています。

このような世界レベルでの認識の高まりの中、9年間にも及ぶ検討期間を経て、昨年11月1日、「社会的責任に関する国際規格：ISO26000」が全世界で発行されました。

この規格は世界中の組織に「社会的責任」を浸透させることを目的とし、その普遍的行動基準を示したものです。グローバルにビジネスを展開しているリコーは、社会的責任を実践していく上で、このグローバルな枠組みを積極的に導入・活用し、さらなるレベルアップを図っていく予定です。さらに自組織だけの対応にとどまらず、バリューチェーンを含めた社会的責任の推進が期待されており、仕入先やご販売店に対してもさらに展開を強化していきます。

また本年3月には、ISO26000の中で特に重視されている「人権」について、この分野に精通している有識者の方々をお招きし、経営幹部との対話（ダイアログ）を行いました。

頂いた意見やアドバイスから、多くの気づきを得ることができ、今後の活動に活かしていく所存です。



「人権」をテーマとした有識者のみなさんとの対話（ダイアログ）



詳しくは、リコーWebサイト、または同サイトに掲載しているリコーグループ社会的責任経営報告書をご覧ください。

社会的責任経営情報

▶ <http://www.ricoh.co.jp/csr/>

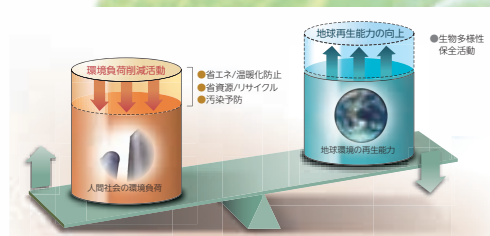
社会貢献情報

▶ [http://www.ricoh.co.jp/csr/activity/soc\\_harmony/](http://www.ricoh.co.jp/csr/activity/soc_harmony/)

## 環境負荷削減と生物多様性保全の両輪で、地球環境問題に取り組んでいます。

### リコーグループの環境経営

リコーグループは、経営のあらゆる側面に環境の視点を取り入れ、環境保全活動と経営活動を同軸で捉える「環境経営」に取り組んでいます。そして地球環境を守るためには、自らが出す環境負荷を減らすだけでなく、地球の回復力を高めていく活動も重要であると考えています。こうした発想に基づき、製品のライフサイクルでの環境負荷削減を行うとともに、生物多様性保全活動を積極的に推進しています。



### 長期的なビジョンと目標

地球環境保全の効果を上げるには、より高い目標を掲げて行動していくことが重要です。リコーグループは、2050年の社会のあるべき姿を描き、その実現に向けた通過点として目標値を設定していく「バックカasting方式」によって、中長期の環境負荷削減目標を定め、環境保全活動を行っています。また、地球環境への脅威は気候変動問題だけではなくありません。リコーグループは、省資源や汚染予防の観点も含めた3本柱で具体的な数値目標を定め、全員参加で活動を推進しています。

### リコーグループ環境活動の主な取り組み

リコーグループでは「資源循環型社会に向けた資源の有効利用」「気候変動問題に対する先行的な環境技術開発と、エネルギー使用を抑えた事業活動の促進」「環境安全性の高い製品づくり・事業活動に向けた化学物質管理の強化」「生物多様性の保全」の4つの活動領域で行動計画を策定し積極的な取り組みを進めています。

#### ■ リコーグループ中長期環境CO<sub>2</sub>負荷削減目標の骨子

省エネルギー・ 温暖化防止	リコーグループライフサイクルでのCO <sub>2</sub> 排出総量（5ガスのCO <sub>2</sub> 換算値を含む）を、2000年度比で2050年までに87.5%、2020年までに30%*削減する。 * 1990年度比34%削減（国内CO <sub>2</sub> ）相当。
省資源・ リサイクル	(1) 新規投入資源量を2007年度比で2050年までに87.5%、2020年までに25%削減する。 (2) 製品を構成する主要素材のうち、枯渇リスクの高い原油、銅、クロムなどに対し、2050年をめどに削減および代替準備を完了する。
汚染予防	化学物質による環境影響を2000年度比で2050年までに87.5%、2020年までに30%削減する。

- 事業および社会全般のCO<sub>2</sub> / 新規投入資源量削減に貢献する環境技術開発
- 製品への新規投入資源の削減に向けた資源循環の拡大と資源の有効利用
- 事業活動にともなう温室効果ガスおよび排出物の削減
- グローバルでの化学物質リスクマネジメント体制の構築と強化
- お客様先での環境負荷削減に貢献する省エネ・両面機能の活用状況把握と利用促進
- 地球環境の再生能力を高めるための生態系保全活動の推進

## カラー複合機 imagio MP C3301/ C2801シリーズを発売

カラー QSU 技術で、使いやすい省エネモードを実現



QSU (Quick Start-Up) とは、複写機の効果的な省エネを実現するリコー独自の省エネ技術で、省エネモードから素早く複写機を使用可能にします。お客様調査の結果、省エネモードからの復帰時間が10秒以上になると、待ち時間が長いと感じるお客様が多いことが分かっています。そこで、省エネモードをより多くのお客様にストレスなしで使っていただくために、リコーでは、省エネモードからの復帰時間10秒以下を目標に技術開発に取り組んできました。2010年11月発売のカラー複合機 imagio MP C3301/C2801 シリーズは、「カラー QSU」における熱効率の向上と、低融点化の改良を実施した新カラー PxPtナー（ブラック）の搭載により、カラー複合機で初めてモノクロ複合機と同等のスリープモードからの9.9秒復帰を実現し、標準消費電力量では、従来機比で約50%の削減と大幅な省エネを実現しました。また、スリープモード時の消費電力も42%低減しており、使いやすさと省エネの向上に大きく貢献しています。

※リコーグループの環境経営HPで詳しくご紹介しています。

imagio MP C3301/C2801シリーズ

▶ [http://www.ricoh.co.jp/imagio/mp\\_c/3301\\_2801/](http://www.ricoh.co.jp/imagio/mp_c/3301_2801/)

製品への取り組み：省エネ・温暖化防止

▶ [http://www.ricoh.co.jp/ecology/product/energy/01\\_01.html](http://www.ricoh.co.jp/ecology/product/energy/01_01.html)



詳しくは、リコー Web サイト、または同サイトに掲載しているリコーグループ環境経営報告書をご覧ください。

# NEWS FILE

ニュースファイル

リコーグループでは、さまざまな取り組みを行っています。  
ここではその主なものをご紹介します。

File No.

01

## 「全英リコー女子オープン」開催

リコーが冠スポンサーを務める「全英リコー女子オープン」が2011年7月28日から英国・カーヌスティーゴルフコースで開催予定です。女子プロゴルフの世界4大メジャー大会の1つである本大会に、リコーは今年で5回目の協賛を実施します。

リコーはこの大会を通して環境プログラム「Plant a tree for Africa」を実施。これは、リコーバリューのひとつである「地球にやさしい」の考え方にに基づき実施しています。出場選手がバーディーを取ると5ポイント、イーグルには10ポイント、そしてアルバトロスもしくはホールインワンには1,000ポイントをカウント、1ポイントにつき1本の苗木をアフリカに植林するというもので、去年は合計で7,847本を植林することができました。



この写真は昨大会のものです。

File No.

02

## 独印刷機最大手ハイデルベルグと提携

2月、バリアブル印刷や多品種小ロットの印刷にすばやく対応できるリコーの技術が評価され、オフセット印刷機を手掛けるドイツのハイデルベルグ社と業務提携を行いました。

提携の第一歩として、ハイデルベルグは4月からリコーのカラープロダクションプリンター「RICOH Pro C901シリーズ」をイギリスとドイツで販売。今後リコーが発売するプロダクションプリンティング製品も対象とし、現在その他の国や地域に販売エリアを拡大中です。

両社は、ユーザーの長期的な収益性向上の実現に向けた付加価値の提供にも取り組んでおり、次世代の印刷アプリケーションの共同開発なども視野に、提携体制を強化してまいります。





File No.

03

## エコソリューション事業、 ユニファイドコミュニケーション システム事業に新規参入

リコーは、市場の大きな成長が見込まれる「エコソリューション事業」、「ユニファイドコミュニケーションシステム(UCS)事業」に新規参入しました。

エコソリューション事業では、省エネルギーに関する法規制や節電への対応のため、LED(発光ダイオード)照明の需要拡大が予測されることから、独自開発の技術とグローバルな販売・サービス網を活かしLED照明市場に参入し、7月から直管形LED照明を発売する予定です。今後も、省エネルギー効果の高い新たな製品群を市場投入するとともに、地球環境負荷の削減に寄与するソリューションを提供してまいります。

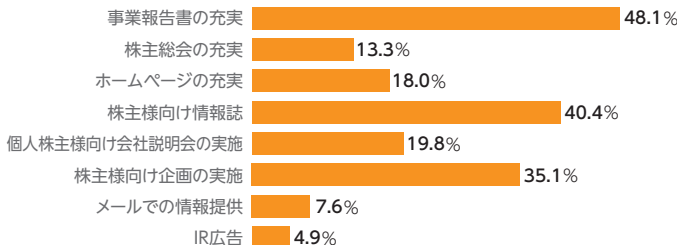
UCS事業では、映像や音声など情報を統合して効率的なコミュニケーションを実現する第一弾の製品として、ビデオ会議システムを夏以降に発売します。このシステムでは、ポータブルタイプの機器を提供することで、今までにない新たなシーンにおける遠隔映像コミュニケーションを可能にします。今後は、さまざまな機器との相互通信を促進し、多様化するニーズに対応する製品・サービスを拡充してまいります。



# 株主アンケート結果のご報告

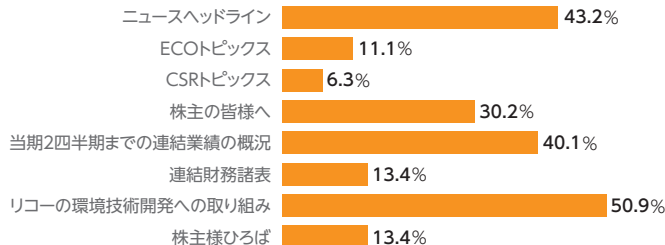
「平成22年度 中間 事業のご報告」にて実施いたしましたアンケートに対して、1,951名の方からご返信をいただきました。ご協力いただきました株主の皆様へ御礼を申し上げますとともに、その集計結果の一部をご報告いたします。

## Q1 当社の情報提供について、今後期待される内容をお聞かせください。(3つまで)



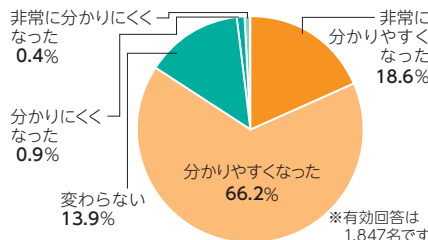
事業報告書の充実、株主様向け情報誌、株主様向け企画の実施に対して高い期待をいただきました。株主の皆様へより充実した情報発信ができるように努めるとともに、株主様向け企画等を通してコミュニケーションを図ってまいります。

## Q3 「事業のご報告」の中で興味を引いたのはどの記事ですか。(3つまで)



約5割以上の方が「リコーの環境技術開発への取り組み」に対してご興味を持っていただけました。業績、今後の成長戦略、そしてリコー製品の魅力や技術力の高さなど、リコーの良さをより深く知っていただける情報をお届けできるよう努力してまいります。

## Q2 今回、報告書(平成22年度 中間 事業のご報告)をリニューアルいたしました。以前の内容と比べて、ご覧になった感想をお聞かせください。(1つのみ)

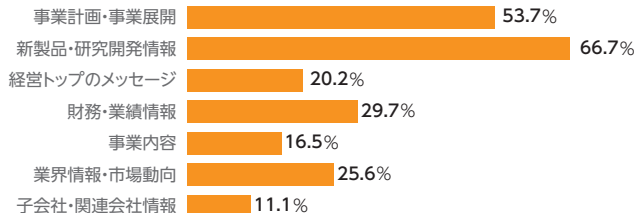


約8割以上の方が分かりやすくなったと一定の評価をいただきました。しかし、更により分かりやすくリコーのさまざまな面をお伝えできるように工夫してまいります。

### 《株主様からのご意見・ご感想》

- イラストや漫画が増えて、とても見やすくなりました。
- 業績ハイライトが明確で理解しやすい。
- 個人株主にはリコーという企業が分かりやすくなった。

## Q4 リコーについて知りたい情報は何ですか(3つまで)



「新製品・研究開発情報」「事業計画・事業展開」の割合が非常に高いことから、今後のリコーを見極める上でも株主様が知りたい情報を提供できるよう努力してまいります。

### その他お寄せいただいたご質問、ご意見

- 社会問題や環境問題への取り組みについて現況と今後の具体的な方針を知りたい。
- 株主向け企画について、地方でも楽しめるような企画を考えてほしい。
- 経営方針・事業内容について株主として経営側と一体になって考えたり見守ったりできるようにしてほしい。
- 人を大切にすることだとは知っていたが、社会や環境全体にも貢献しようとして努力されているのが良く分かりました。

株主の皆様からのご意見・ご要望は、株主様向け企画やIR活動の参考とさせていただきます。今後も皆様とのコミュニケーションの一環として、アンケートを行ってまいりますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

# 株主様向け企画のご報告

リコーでは、株主の皆様当社に対するご理解を深めていただくため、昨年より株主の皆様とのコミュニケーションを図る企画を開催いたしております。



## 事業所見学会

大変良かった **73.0%**

普通 2.7%  
良かった **24.3%**

満足度 **97.3%**

2011年2月8日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(40名)をご招待し、本社事業所およびリコーテクノロジーセンター(以下、RTC)の見学会を実施いたしました。当日は、本社にて中村専務執行役員の挨拶に続き、プリンティングイノベーションセンターにてプリンティングソリューションをご体感いただきました。その後、バスでRTCに移動し、社員食堂にて昼食をとり、午後からは評価室や電波暗室、新棟のコラボスペースなどを見学いただきました。

株主の皆様からは「高い技術と知識を持った日本が誇れる会社だと思いました。若い社員が多いですね。日本を元気づける企業として海外での競争力をつけて頑張ってください。」「リコーでは想像以上にたくさんの商品を研究開発していることに改めて感動しました。」といったご感想を頂戴しております。



## 市村自然塾見学会

大変良かった **71.4%**

良かった **28.6%**

満足度 **100%**

(5月20日到着分まで)

2011年5月14日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(15名)をご招待し、市村自然塾の見学会を実施いたしました。当日は、本社に集合しバスで自然塾へ移動し、食堂にて塾生たちとともに昼食をとりました。その後、枝村塾頭より自然塾の概要説明を受け、塾舎および周辺を見学し、最後にジャガイモ畑にて農作業に精を出す塾生たちをご覧になりました。

株主の皆様からは、「リコーの文化事業の熱心さが良く分かりました。自然塾の活動を通して、子供の健全育成を続けてください。」「これから日本を支えていく子供たちがしっかりと目的を持って成長している姿に感激しました。」「子供たちに対する地道な活動には本当に感心しました。」といったご感想を頂戴しております。



## リコーフィル演奏会

大変良かった **65.0%**

普通 1.7%  
良かった **33.3%**

満足度 **98.3%**

2011年2月12日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(ペア100組200名)を「リコーフィルハーモニーオーケストラ第49回演奏会」にご招待いたしました。

株主の皆様からは「久しぶりにコンサートに出掛け楽しい時間を過ごせました。ありがとうございます。」「コンサートに初めて参加させていただきましたが大変楽しかったです。日頃のお仕事の合い間をぬってあれほどの演奏ができるのは本当に素晴らしいことだと思いました。」といったご感想を頂戴しております。



## 株主の皆様への情報発信形式の変更について

株主の皆様へリコーのさまざまな面を知っていただくため、今回より株主の皆様への情報発信形式を右記のように変更させていただきます。今後とも株主の皆様のご意見を頂戴しながら株主様視点で、更に充実した情報発信ができるよう努力してまいります。

対象の株主様	発送時期	6月上旬	6月下旬(総会后)	12月上旬
単元株式 ご所有の株主様		招集通知 +  RICOH REPORT (夏号)	決議通知	RICOH REPORT (冬号)
単元未満株式 ご所有の株主様			RICOH REPORT+ (夏号) +  決議通知	RICOH REPORT (冬号)

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	
定時株主総会・期末配当中間配当	毎年3月31日 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL (0120)78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

### ■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ■「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、本年より配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

## 今後のIRスケジュール(予定)

当社では迅速かつ正確な情報開示を心がけるほか、さまざまな投資家の皆様に向けた活動も行っています。以下は当社の今後のIRスケジュールになります。ご参考の上、引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

なお、予定は予告なく変更される場合がございます。

- 平成23年7月末頃：第1四半期決算発表
- 平成23年10月末頃：第2四半期決算発表
- 平成23年12月上旬頃：RICOH REPORT (冬号) 発送

## 株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号 TEL (03) 3777-8111

## WEBサイトのご案内

当社では、最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。



リコー  検索  
<http://www.ricoh.co.jp/>



この報告書は、NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認定されました。



※表紙写真はCX5で撮影したものです。